

みやざき木育マイスター業務報告

氏 名	家村 祐香 (有限会社 イエムラ)
実 施 場 所	社会福祉法人 富高福祉会 富高保育園
実 施 年 月 日	令和 7年 8月 21日
参 加 人 数	年中・年長児 20名、保育者5名、地域サポーター2名
活動の内容	当年度、森林林業協会が公募した 2025年度みやざき木育プログラム実施演募集に応募いただいた、富高保育園での「森の雫」実施。 ①保育者5名、地域サポーター2名へのサポーター講座(30分) ②年中・年長児20名と森林環境講話・「森の雫」実践(75分)

①木育サポーター講座

参加:保育者 5名、地域サポーター 2名、 実践前の木育サポーター講座
姿勢・道具の使い方について重点的に説明をし、見守りのポイントとして話した。



③年中・年長児対象「森の雫」づくり実践

参加:年中・年長児 20名、保育者 5名、 地域サポーター 2名、 見学 1名
導入では、園長先生が実際に家から持ってきた栗の青実がついた枝木を持ってきたり、紙芝居から実際に園周りの山々を見わたし、スギの木を探してみるなど、良い流れで実践に入る事ができた。



【 木育実施の感想・意見などまとめ 】

①木育サポーター講座

- ◎保育者4名、地域サポーター2名参加。園の周辺環境が山や田に囲まれており日頃から自然の中であそぶ子供たちだが、このよう道具を使っての製作は初めて、との事で、参加者には
- ・道具(紙ヤスリ)を使う時の姿勢
 - ・ヤスリの動かし方
- 2点をポイントとして話した。

④年中児・年長対象「森の雫」づくり実践

- ◎はじめに園長先生の話。栗の枝木をこどもに見せて、自然の豊かさについて触れた。

「森の雫」の紹介。円窓から見える山々の中からスギを探した。紙芝居を先生に読んでもらい制作にとりかかる。姿勢はふだんから園で「立腰」を指導されていることもあり、上手にできていた。紙ヤスリの使い方を三つ折りのやり方で説明をしたが、実践の中で、ヤスリ机置きのかけの方がやりやすそうなお子様には声掛け、各テーブルに大人がついていたのでスムーズに進行・オイル塗り完成まで行う事ができた。

(振り返り・参加者感想)

サポーター>子どもたちが細かい作業をするのを見たことがなかった、良い経験になった。

サポーター>姿勢が基本、という考えにとっても共感する。何事も姿勢が大事。

自分でしようとする姿、他の子に負けまいとする姿を見て、成長しているなど感じた。木育で集中力や集団活動、思いやりの心が育つなと感じた。

完成させる喜びを感じ、他の子と見せ合ったりしている姿が良かった。

保育者>作業工程の中でそれぞれ削り方を工夫したり、考える力にも繋がっていると感じた。

県内にどんどん広めて行ってほしい。

保育者>年中さんの不器用なお子様、自分なりに頑張っていた。年長さんが教えてあげたりしている姿が見られた。

保育者>「疲れた」「手が痛い」などの声もあったが、事前に「想いを込めた」おかげか

「お母さんが見たら喜ぶよね」「びっくりするよ」など言い合ってやる気・根気に繋がったと思う。また、見本と見比べながら完成まで頑張る事ができた。

園長> 理事長やサポーターさんに保育を見てもらい良い機会となった。時間配分もちょうど良く、完成もつるつるの木を感じられたのが良かった。

家村> 各テーブルに大人が1名つけたので、予定どおりスムーズに進行することができた。

園周りの自然環境が豊かで、紙芝居の前後に実際に窓外に広がる山々を見ながらスギの木のかたちや年輪、木目について話すなど、自然に園児の心に残る話・体験ができたのではないかと思う。先生方の感想も、体験を通して、みやざき木育が目指す6つの力を感じながら実践していただけたようで、体験としては非常に満足いただいた印象であったが、これを次の段階へ繋げるためのアクションが課題であると感じた活動だった。